

繁殖に関する牛群検定成績表 (乳検データ)の活用

事業部 損防検診室 獣医師 三宅 英之

月に1度送られてくる乳検データには、現在から過去13カ月に渡る牛群にとって有益な様々な情報が示されています。その中でも牛群の経済性(収益性)に直接的に影響する繁

殖成績に関する乳検データの活用方法をいくつかご紹介したいと思います。繁殖成績が改善すると飼料効率の最も高い泌乳ピーク期の頭数割合が高くなることで牛群全体の生産性が上がります。逆に繁殖成績の悪化で何が起るのか?前述の生産性の低下は勿論ですが、泌乳後期に受胎するため乾乳期間が長くなり、

The image shows a complex spreadsheet titled '検定成績表(牛群)' (Breeding Performance Report for Herd). It contains multiple tables and charts. Key sections highlighted with red boxes and numbered 1 through 5 are:

- ① 繁殖管理 (Breeding Management)
- ② 牛群構成 (Herd Composition)
- ③ 経産牛1頭当たり年間成績 (Annual Performance per Lactating Cow)
- ④ 年間305日成績 (Annual 305-Day Performance)
- ⑤ 月別分娩予定頭数 (Monthly Planned Calving Headcount)

Other visible sections include: 年間累計 (Annual Total), 検定日成績 (Performance on Testing Day), 項目別種雄牛成績 (Performance by Breed/Type), 体細胞 (Somatic Cells), 初産分娩月齢・分娩間隔 (First Calving Age/Interval), 平均体重 (Average Weight), 検定日乳量階層 (Milk Yield at Testing Day), 年間追加除籍牛 (Annual Addition/Removal of Cows), 授精報告 (Mating Report), 搾乳管理 (Milking Management), and 検定日牛群構成 (Herd Composition on Testing Day).

周産期病が増えます。そして、分娩が減ること、後継牛の更新ができず、積極的淘汰が難しくなります。そのため一般状態の悪い牛を飼養しなければならぬ、より一層繁殖性

が悪くなるという悪循環に陥ってしまいます。ここからは、乳検データのどこを見れば繁殖成績を評価できるのか具体的に紹介していきたいと思

います。繁殖成績が改善すると飼料効率の最も高い泌乳ピーク期の頭数割合が高くなることで牛群全体の生産性が上がります。

① 繁殖管理

まず最初におおよそ目標とする空胎日数、分娩間隔について図1にご紹介します。

これは繁殖管理の欄に示されていて、一般的に目標とする理想的な分娩間隔は380日と言われています。生理的な空胎日数を60日とすれば、次のような計算式になります。

$$\text{分娩間隔 (380日)} = \text{妊娠日数 (約280日)} + \text{生理的な空胎日数 (VWP: 60日)} + \text{授精期間 (40日)}$$

となり、これは即ち分娩後60日を過ぎたらすぐAIを開始して発情3回まで(約100日まで)に受胎させることを目標にすることを意味します。この目標はあくまでも理想とする分娩間隔であり、産次数、季節、乳量、エサの品質、周産期病など様々な要因に左右される繁殖成績の特質を考えると、この数字を牛群で達成することは

